

病院だより

January 2013
復刊 第333号
平成25年1月1日発行

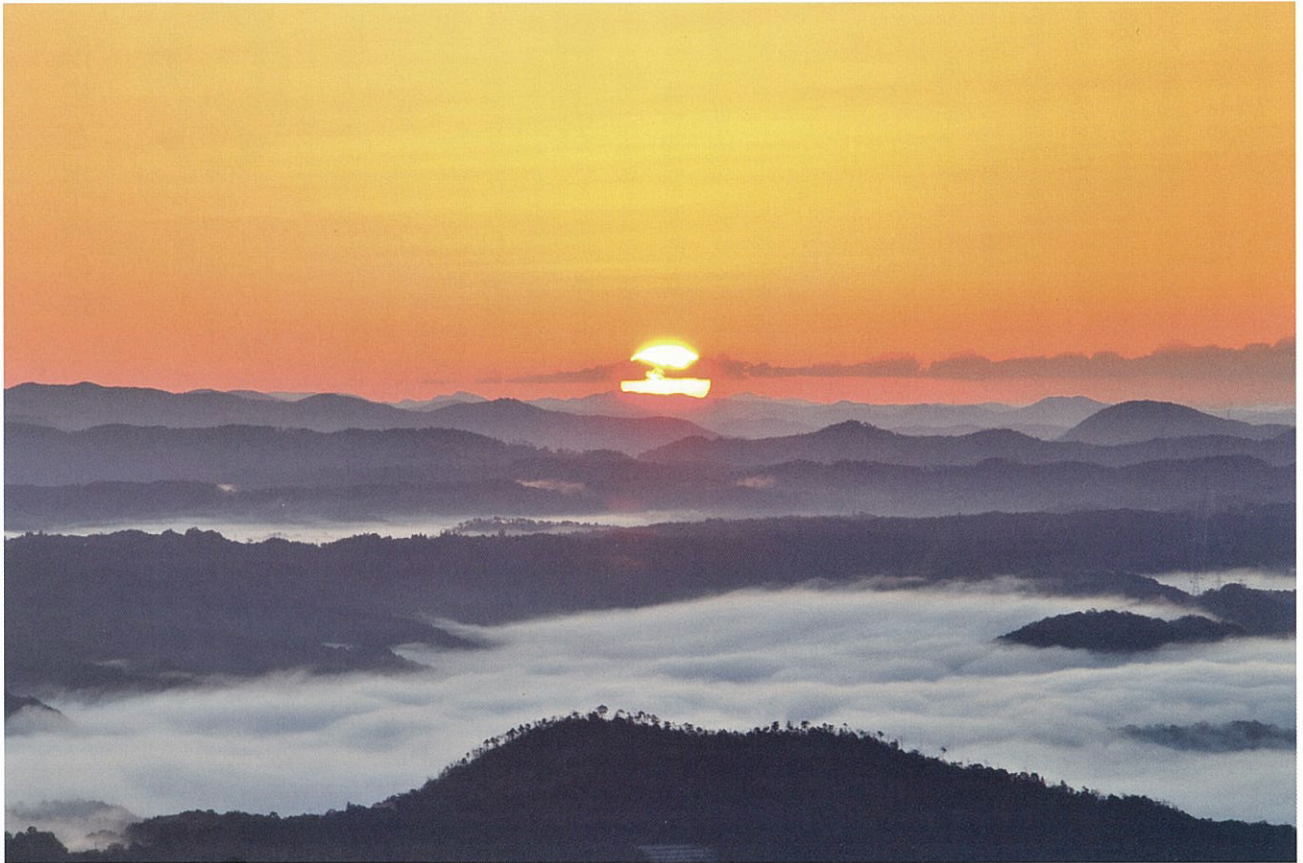
1月号

okayama hospital
association

一般社団法人岡山県病院協会

〒703-8278 岡山市中区古京町1-1-10
電話:086-272-6400

- 発行人/会長 小出尚志
- 編集人/佐藤能之
- 印刷所/株式会社中野コロタイプ



輝かしい未来へ (弥高山の日の出)

吉備高原ルミエール病院 横溝正行氏 撮影
(写真説明は7ページに)

Contents

2013年のスタートにあたって	2	第2回栄養管理研修会 (管理栄養士・栄養士研修会)	8
第9回常務会	4	支部だより(岡山)	9
津山地区病院協議会	5	ふるさと散策	9
第2回介護保険研究会 (今後の介護保険制度の方向性について)	5	最近感じたこと	10
第2回栄養管理委員会(給食施設見学)	7	今月のKeyワード「アラフォー世代」	10
病院協会 平成25年2月行事予定	7	編集後記	10

スタートにあたって

再生と復活の年



一般社団法人
岡山県病院協会
会長 小出尚志

新年明けましておめでとうございます。昨年「金」が選ばれました。一年を象徴する漢字です。オリンピックのメダルラッシュ、ノーベル賞授与となった山中教授のiPS細胞、世界一のスカイツリーなど、数々の日本の金字塔が打ち立てられました。岡山県病院協会の「金」は設立50周年でした。記念式典をはじめとする一連の50周年記念事業の成功は、輝かしい協会の歴史に華を添えることとなりました。実行委員会やスタッフの皆さまの献身や会員病院のご理解とご支援の賜物であります。あらためてお礼申し上げます。

さて、今年は巳年です。巳は蛇、蛇の脱皮は再生と復活の象徴とされます。昨秋の県知事選では若々しい伊原木知事が誕生し、師走選挙となった衆議院では歴史的圧勝となった自民党が政権を奪還しました。本年が、我が国の再生と復活の巳年となりますよう、そして当協会と全ての会員病院にとって良い年になりますよう祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

岡山支部長

万成病院
理事長・院長 小林建太郎

新年明けましておめでとうございます。昨年は岡山県病院協会にとって歴史的な一年でした。4月1日より「一般社団法人 岡山県病院協会」となり、設立50周年を迎えました。アグネス・チャンの記念講演には感動があり、記念式典も大変な盛り上がりでした。日本一の団結力を持つ病院協会だと思っています。

今年は新たなスタートの年です。社会保障を取り巻く状況は不鮮明で、年末の選挙では政治の枠組みも大きく変わりました。ただ変えてはいけないのは、「良い病院づくりを通して良い医療を提供し、地域に貢献する」という病院協会の理念です。医療情報ネットワークもいよいよ稼働します。情報だけが独り歩きするのではなく、当協会のストロングポイントである顔の見えるネットワークをさらに強化して臨みたいと考えます。本年もご指導のほどよろしくお願い致します。

玉野・児島支部長

児島聖康病院
理事長・院長 山崎泰弘

新年明けましておめでとうございます。昨年は混乱の一年でした。東日本の復興、福島の原発処理もままならず、また尖閣諸島等の領土問題も然りです。

そして新しい年を迎えました。我々に関する医療福祉の問題も、これからどうなるか不安がいつばいいます。その中で、我々は地域住民の健康を守っていかねばなりません。そのためには、会員病院が相互に連携・協力をして、その任を果たすべく努力をしていきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

倉敷支部長

水島中央病院
院長 中務治重

新年明けましておめでとうございます。病院協会50周年の平成24年は、日本が混沌とした一年でした。東日本大震災・福島原発事故の復興・復旧は、たつた一年で既に片隅に置かれてしまった感があります。医療において、山中教授がiPS細胞でノーベル賞を受賞したことや、天皇陛下の心臓バイパス手術成功は素晴らしいニュースでした。今年は原発の将来像、稚拙な外交・領土問題、国の莫大な借金、さらには医療にも問題が山積みです。加速する高齢化、認知症高齢者が昨年300万人を超え、終末期医療をどう考えるか、死亡率60%近い鳥インフルエンザも脅威です。昨年の衆議院選挙で掲げられた各党の公約には医療環境が改善される要素が見えませんが、医療は私たち医療従事者だけでなく行政・メディアに加え、地域住民が一体となって支えることが大切であると考えます。平成25年が良い年になりますように。

井笠支部長

金光病院
理事長・院長 難波義夫

新年明けましておめでとうございます。病院協会は50周年もすぎ、新しい未来に向かって進まなければなりません。

社会保障の改革を、国はどのように進めていくのでしょうか。大きな目標を掲げ、それに向かって現時点でできること、これからより一層の改革をめざし、国民全体で痛みを分かち合う覚悟で臨まなければならないことをしっかりと見極めて進まねばと思います。

日本のそれぞれの団体の要望をしっかりと捉え、舵取りを任せられる指導者でありますよう期待します。しっかりとしてほしい、日本の指導者。

吉備支部長

済生会吉備病院
院長 高田眞治

新年明けましておめでとうございます。衆院選の結果自民党が圧勝しましたが、どのような世の中になるのでしょうか。

医療についても、一時ほど「医療崩壊」という言葉はきかれなくなりましたが、やはり中小病院にとっては医師、看護師不足は今なお深刻です。年の初めから暗い話になりましたが、明るい話題として、病院協会もかわつている地域医療情報ネットワーク「晴れやかネット」が始まります。医療連携の新たなページになることを期待しています。

高梁支部長

こころの医療たのびの丘ホスピタル
院長 原田俊樹

明けましておめでとうございます。

昨年末には衆議院選挙が行われましたが、多数政党の政策本論よりも政党間の聞き合いや潰し合いが目立ち、当然新政権への期待も低くならざるを得ません。脱原発、TPP、消費税増税などの問題も重要な問題ですが、すべてが理想的に展開するとは思えず、国民一人ひとりがある程度の重荷を背負う覚悟が必要です。われわれ医療人は診療報酬が抑えられる一方で人的充足や医療の質の向上を求められており、このジレンマを解消すべく、今後も協会の皆様のお知恵やご指導を賜りたいと願っております。

新見支部長

長谷川記念病院
理事長・院長 長谷川賢也

新年明けましておめでとうございます。新見地区では、以前と同じように医師をはじめとする有資格者の少なさが続いています。当然、一人当たりの仕事量はかなりのもので、本人だけでなく、その家族にもかなりの負担があるものと思えますので、心苦しいところです。

昨年末の衆議院選挙では、自民党が政権をとりましたが、国民皆保険を維持し、現在の医療レベルを下げることなく国民に提供するには、何をどうしたらいいのか、ということをご議論することぜひ提起して欲しいと思います。本年も4病院が今までどおり連携をとって地域医療を守りたいと思います。本年もよろしくお願致します。

真庭支部長

総合病院落合病院
院長 井口大助

新年明けましておめでとうございます。

医療をとりまく環境はめまぐるしく変化しておりますが、地域から求められることは、安心のできる丁寧な医療であることに変わりはありません。当地では医師・看護師不足も深刻になってきており、医療の提供に影響が出てきていることを実感しております。

晴れやかネットの稼働により、病院間の連携、診療所の先生方との連携、地域を越えた連携がより推進され、今まで以上に充実した切れ目のない医療が提供できるよう努力してまいります。今年もどうぞよろしくお願いたします。

津山支部長

津山中央病院
名誉院長 徳田直彦

新年明けましておめでとうございます。岡山県病院協会も、次の半世紀を歩みだすことになり新たな展開が期待されます。昨年末は総選挙があり、新たに政権を担う政治家の皆さんには、ぜひともスピーディに日本を過ちなく導いて頂きたいものです。

どんな医療行為にも必ずメリット(治療効果)とデメリット(合併症や副作用)があるように、どんな政治決断にもメリット・デメリットはあるものです。デメリットを受ける側は当然声高に反対意見を叫び、メディアも喜んで同調するため、ずつと決められない政治が続いてきました。成熟社会の基本的条件である、グローバルな情報分析に基づいた、現実的で冷静な議論と、その結果として、情緒に流されない決断をするようになれば、もつと豊かで、優秀な人材・資産を活用した日本社会が築けるはずです。今年からは、ととこ現場に立ち、現場を越えた発想からビジョンを構築し、丁寧な説明と情熱で各界をリードし、結果に責任をとる医療では当たり前の方策で、前向きで実行力のある政策を期待しています。本年もよろしくお願申し上げます。

東備支部長

長島病院
理事長・院長 長島洋

新年明けましておめでとうございます。

昨年は「iPS細胞」の件で話題がもろもろありました。先端医学の進歩は想像を絶するものがあります。私の属する岡山大学法医学教室の忘年会で、宮石教授の話のなかで「救急現場で、死因究明をより正確にするために、救命センタースタッフを兼務」することになると、発令は平成二十四年十二月一日からだそうです。医学の進歩に末端の病院はいかに考えるか、これから問われていくと思います。



2013年の